



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 田中 武
- 幹事 門前 庄次郎
- 会報委員長 田中 正躬



秋、早朝の風景 蜘蛛 康介

<会長の時間>

戦前、一人前の職人また棟梁といわれるには、建築設計はもちろん、彫刻、指物、家具、建具から絵画まで一応こなせばならず、またいい大工ほど貧乏していたといひ、『貧乏したけりや、いい大工になれ』との言葉さえ高山に残っています。名人いわれる大工たち、女房や娘を細工場へ決して入らせないほど厳しい仕事をしました。ひたすら“いい仕事をしたい”という職人気質を誇った飛騨の大工の姿はもう今はみられません。



木造住宅から和様折衷住宅に、そして大工道具も自動鋸、自動鑿に変わったように、住宅も建築技法も大きく様変わりしましたが、最近になってまた改めて和風の木造住宅が見直されています。

木造は一般に鉄やコンクリートより弱いと思われがちですが、重量当たりの引っ張り強さは、木材でも弱いほうという杉で鉄の約四倍、圧縮抵抗ではコンクリートの約四倍です。虫食いに弱く、燃えやすい欠点はあるものの、密閉状態で煙に巻かれて死ぬビル火災のような大量焼死火災は少なく、また鉄筋コンクリート建てアパートは、夏は暑く、冬は寒くて住みにくいという不評や、湿度の高い降雨期には結露して壁などが汗をかく欠点もあります。その点、木造住宅は自然の変化に敏感で、たとえば湿度の変化で膨張、収縮したりします。水害で浸った桐のタンスの引出しが吸水膨張して、タンスの中身が無事だったという事例も報告されています。

飛騨に多大な被害をもたらした 5 6 豪雪では、建築基準法の耐震基準に合った鉄筋あるいは鉄骨構造の近代的な施設を誇っていた三つの体育館（郡上郡白鳥町の県立郡上北高校、大野郡荘川村の荘川中学校、吉城郡神岡町の三井金属神岡鉱業所）が 2~2.7m にも達した積雪に耐えきれず、屋根がつぶれていずれも崩壊するという予期せぬ事態に、地元民は改めて雪の力に驚愕しました。鉄筋・鉄骨の堅固な体育館はつぶれても、木造住宅が豪雪でつぶれたという報告は聞きませんでした。

前回同様、孔子の教えの五つ目は、『勇にして礼なければ則ち乱る』。訳一行を行ううえでいくら勇ましくてもいいが、そこに『礼儀』というものがないと、只の乱暴者である。

<幹事報告>

◎RI 日本事務局より

- ・11 月のロータリーについて
- 1 ドル 106 円（現行どおり）

◎ガバナーより

- ・広島豪雨災害 中間報告について
- ・「ジャパン・ロータリーデー in 愛知」について



<受贈誌>

RI 日本事務局（財団室 NEWS）、可茂 RC（会報）

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前回	39 名	5 名	44 名	47 名	93.62%
本日	37 名	-	37 名	47 名	78.72%

<本日のプログラム>

I A C 飛騨地区研修会報告

インターアクト委員長 大村 貴之

本日はインターアクト委員会の担当例会です。飛騨高山高等学校



インターアクト部顧問荒川先生と副部長の杉下さんにお越しいただき、10月26日（日）に行いました『インターアクトクラブ飛騨地区研修会』の報告をさせていただきます。

今回は 飛騨高山高等学校インターアクトクラブがホストクラブ、高山西 RC がスポンサークラブとして開催いたしました。来賓として、

- ガバナーノミニー 剣田廣喜 様（高山中央 RC）
- 青少年奉仕部門委員長 長瀬隆 様（可児 RC）
- インターアクト小委員会委員長 伊藤靖則 様（四日市 RC）
- インターアクト小委員会委員 宮園丸志 様（松阪山桜 RC）
- インターアクト小委員会委員 今津健一郎 様（岐阜サバーバー RC）
- 青少年育成小委員会委員長 永家将嗣 様（高山中央 RC）
- 飛騨高山高等学校 教頭

にご出席いただき、当クラブからは、田中武会長、門前庄次郎幹事にも出席していただきました。ありがとうございました。

研修会の報告は、荒川先生 杉下さんをお願いしてありますので、この後よろしくお願ひします。

荒川先生には日程の調整をはじめ、講師の決定など、何もわからない私に変わって段取りいただき本当に助かりました。会場準備・片付けの際には飛騨高山高校インターアクトクラブの皆さん・門前幹事・事務局 中澤さんにもお手伝いいただき、ありがとうございました。今回場所を ひだしのさるぼぼサロン 2 階をお借りし行いましたが、私自身も初めて利用する場所にもかかわらず準備不足もあり、開始直前までプロジェクターとパソコンがうまく繋がらず、講師の方にも大変ご迷惑おかけしました。

今年度のインターアクト委員会の主な活動は、飛騨地区研修会ですべて終了しました。8 月のインターアクト年次大会が台風のため中止になったことは非常に残念でしたが、初めての委員長としていろいろな経験もさせていただきました。残りの任期中も、インターアクトクラブに対し、何か協力できればと思いますので引き続き宜しくお願いします。

例会報告



飛騨高山学校 インターアクトクラブ 杉下 園美 さん

ロータリーの方々には、日頃から様々な形でご支援いただきありがとうございます。先日は、お忙しい中たくさんの方に参加していただきありがとうございました。爽り多き会となった合同研修会の報告をさせていただきます。



今回の合同研修会ではたくさんの刺激を受けました。講演では、最初に猿田先生の事を「日本中東学生会議の副委員長をしてみえた方」だと聞いても、規模が

大きくてあまりピンとこなかったけれど、講演が終わる頃には、年の近い猿田先生への憧れの気持ちでいっぱいでした。私もボランティア活動に関心があり、何度か子供と触れあう活動に参加したことがあります。そんな中で、学校行事で聞いた講話やニュース番組などを通して、イスラエルやパレスチナの戦地や酷い環境で暮らす子供達にも興味を持っていました。

戦争とは無縁の地で生まれた私には当たり前すぎて、深く考えたこともなかった「平和」。それに対して「平和とはいったい何なのか」と激しい感情をあらわにして語る若者達のビデオを見ながら、私は鳥肌が止まらず、今まで自分はとても軽い気持ちで戦地の子供達を助けたいと考えていたのだと思い知りました。しかし猿田先生は、今の私と同じ高校生の頃から積極的に活動に参加し、私たちがテレビニュースの中でしか見たことのない土地に実際に訪れていらっしゃいます。英語も「喜びは言葉なしでも共有できるけど、悲しみは原因が分からないと共有できない」とご自身の経験をきっかけに努力されたと言ってみえました。様々な機会に出会った人達を皆覚えていて、その人達を思い出して涙ぐむ先生の姿を見て、私はこんな風に人種や立場関係なく、目の前の人と心からまっすぐにぶつかり合えるような人になりたいと強く感じました。

猿田先生は世界で活躍されている方ですが、その部分は規模に関係なく言えることだと思います。先生のように大きな世界で働くことは難しいかもしれないけれど、私は、私がこれから生きていく社会の中で、猿田先生のようなまっすぐな目と心を目指し、夢のために努力したいと思います。忘れられない貴重な講話となりました。以上で終わります。本日はありがとうございました。



飛騨高山高等学校 インターアクトクラブ 顧問 荒川 一弘 先生
第29回 I A C 飛騨地区合同研修会報告

10月26日(日) 13:00~15:45 ひだしんさるぼろ倶楽部サロン棟
歓迎の挨拶：高山西ロータリークラブ 田中 武会長、飛騨高山高校 高田 広彦教頭、中畑 愛帆インターアクト部部長
来賓代表挨拶：地区ガバナーノミニー 剣田 廣喜 氏
講演者：猿田 幸恵さん

(国際基督教大学3年 文化人類学専攻、国際関係学副専攻)
講演タイトル Design your image of “others” -イスラエル・パレスチナ地域を二年半見つけて-



講演概要

高校生1年生の時は、ダンスに熱中し、服飾にしか興味がなかった。3年生の時に英語を学びたいと思い、ニューヨーク研修に参加する。模擬国連に参加し、20ヶ国から参加した学生たちとインターネットに関して議論するも英語力不足を痛感する。かつてストリートチルドレンであった同世代のフィリピン人の青年に感化される。楽しさは言葉通じなくても伝わるが、悲しさの原因は言葉無くして伝わらないと感じる。実際に人と会って話すことで人は人に影響を与えることができるのであると自覚し、帰国後の猛勉強により国際基督教大学に進学する。大学1年生の時、日本イスラエルパレスチナ学生会議にスタッフのひとりとして関わる。ディスカッションを通して、相手を理解することはできるが、議論をすればするほど、あるイスラエル人が自国の政策に疑問がわき、何故イスラエル人に生まれてきたのだろうかという自分の存在価値さえも疑いを持つに至り、果たして話をするだけで意味があるのだろうかという疑念が湧く。イスラエル、パレスチナ双方の学生と友情を築くことはできたが、心のもやもやが晴れず、再度2年生で、日本イスラエルパレスチナ学生会議第11期副代表の就任を決意する。団体のプログラムとしてイスラエル人、パレスチナ人の大学生を日本

例会報告

に招聘するために、パレスチナに候補者選定のための面接を実施するためにパレスチナに渡る。2013年夏にパレスチナ人・イスラエル人・日本人の学生たちで紛争に関する諸問題に関して対話するプログラムを運営した。その後、個人で2013年秋と2014年春に現地へ渡航し、ヨルダン川西岸地区を中心にパレスチナ人と直接会い、見聞を広める。2014年春の一ヶ月間、エルサレムに事務所のあるNGO Palestine-Israel Journal でインターンを行う。3ヶ月に1回紛争に関するジャーナルを発行するこのNGOで4つの記事が採用される。帰国後も、継続的にパレスチナ支援の活動にボランティアとして携わり、今月末より、駐日パレスチナ常駐総代表部（大使館）でインターンを開始する予定である。

以上、パレスチナ・イスラエル問題に2年半関わり、わかったことは、お互いが他者に対するイメージを作る能力にかけており、かつ他者について考える努力を怠っているためである。他者のイメージを構築する上で、どうしたら相手のイメージがよくなるのかをデザインすることが必要である。



<ニコニコボックス>

●田中 武さん、門前 庄次郎さん

飛騨高山高校インターアクト部顧問の荒川一弘先生、部員の杉下園美さんようこそお越しくございました。また、26日のインターアクト地区研修会、ご苦勞様でした。先生・部員の皆さんのおかげで、良い研修会になりました。本日はその報告を宜しくをお願いします。そして大村インターアクト委員長、事務局の中澤さんにも準備段階からお世話かけましたが、無事終わられた事に感謝いたします。有難うございました。

●大村 貴之さん

飛騨高山高校 荒川先生、インターアクトクラブ杉下さん、ようこそお越しくございました。飛騨地区研修会の報告を宜しくをお願いします。

●伊藤 松寿さん

10月22日、久々野中学校での我が西ロータリークラブの出前講座はメンバー12名がまさに車座で生徒さん達に熱く各自の職業観を披露してみえました。私は分科会前の「基調講演」を四つのテストにからめて、何とか務めを果たすことが出来ました。ありがとうございました。

●野戸 守さん

年次大会出席の皆さんご苦勞様でした。また、はと観光のバスをご利用下さり誠にありがとうございました。

●小森 丈一さん

二週続けて休会しましたがホームページで会報を読みました。どの方も良い報告でIM、地区大会の様が良く解りましたので。

●古橋 直彦さん

櫻山八幡宮の例大祭から3週間、先日平成26年秋の高山祭り意見交換会が高山市役所で開催され今年の祭りもようやく全て終わりました。私事ですが、来年はいよいよ年行司長です。願わくは天候に恵まれ祭事が無事終了出来ますよう、多くの観光客が押し寄せ高山市が潤います様に。

●井上 正さん

今日は会社の創立11年の記念日と亡き母の18年目の本命日です。亡き母に見守られながらこの11年間頑張ってきた。今日が無事迎えられる事に感謝を忘れず、これからも努力を重ねて参りたいと思います。

●田中 正躬さん

10月28日妻の誕生日には素敵な花束ありがとうございました。今日は別院報恩講の準備のため早退します。写真は堀川さんにお願ひしました。どうか宜しく!!

●阪下 六代さん

珍しく公用のため早退させていただきます。また来月もニコニコボックスへの皆様のご協力をお願いいたします。